法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-10-06

なし

(発行年 / Year)
1910

永小作權

（理由）本章規定ハ既成法典ニ於ケル永借權ノ規定ニ該當ス而シテ其規定ノ本質ニ至リテハ二者大ニ相同シカラサル所アリ既成法典ニ於テ永借權ト稱スルモノハ唯長期ノ賃貸借ヲ指ニ過キサレトモ單ニ期間ノ長短ノ差ニ因リテ性質ノ相等シキ權利ニ殊別ノ名稱ヲ附シテ法律ノ規定ヲ異ニスルハ決シテ穩當ノ事トイフヘカラス本案ニ於テハ賃借權ヲ人權トシタルヲ以テ永小作權ハ賃借權トハ全ク性質ノ相異ナルモノトナリ特別ニ之ヲ規定スルノ必要益明了トナリシニ因リ此點ニ關シテハ全ク既成法典ヲ改正シタルナリ又既成法典ニ於テハ永借權ヲ汎ク一般ノ不動產ノ賃借權トセルモ建物又ハ樹木ノ土ニ永小作權ヲ設定スルカ如キコトハ嘗テ聞カサル所ナルヲ以テ本案ハ單ニ之ヲ土地ノ上ニ限ルモノトシ且耕作又ハ牧畜ノ爲メニ存スルモノトシテ永小作權ノ性質ヲ明確ニセリ其存續期間ニ至リテモ既成法典ニ於テハ常ニ三十年ヲ超ユルモノトセルモ之ヲ我國ノ慣習ニ照ラスニ三十年以下ノ永小作ヲ認ムルヲ以テ本案ニ於テハ改メテ最短期ヲ十年トシタリ其最長期ニ至リテハ昔時ニハ永代小作ト唱ヘテ無期限ノモノ多カリシカトモ維新以來ノ小作ニハ通常一定ノ期限ヲ附スルノ例ナルヲ以テ本案ハ此最近ノ慣習ニ基キ各地ノ情況ヲ斟酌シテ之ヲ五十年トセリ其權利ノ名稱ヲ永借權トセスシテ永小作權ト改メタルカ如キハ我國從來ノ慣習ニ從ヒタルニ外ナラス尙第三百六十九條第二百七十五條等ノ理由ヲ逃フルニ當リテ說明スル所アルヘシ

既成法典財產編第百五十六條第五項及ヒ第六項ノ規定ハ當然民法施行條例ニ揭クヘキモノトシテ之

ヲ削除セリ

第二百六十九條　永小作人ハ小作料ヲ拂ヒテ他人ノ土地ニ耕作又ハ牧畜ヲ爲ス權利ヲ有ス但土地ニ永久ノ損害ヲ生スヘキ變更ヲ加フルコトヲ得ス

（理由）一、既成法典財產編第百五十八條第一項ニハ永借人ノ權利ヲ定メ永借人ハ永借地ノ形質ヲ變スルコトヲ得但永久ノ損害ヲ生セシメサルコトヲ要スト云ヒ以下數條ニ規定スル所ハ大率此條項ノ適用ニ過キス或ハ當然言フヲ待サルコトアリ或ハ全ク行政法ノ規定ニ讓ルヘキモノアリテ削除スヘキ條項尠シトセス而シテ右第百五十八條ノ規定ニ至リテモ亦大ニ修正ヲ要スルモノアリ同條ハ其第一項ニ由リテ永借權トヲ區別シ但書ヲ以テ永借權ト所有權トヲ區別セントシタリ永借人ハ永借地ノ形質ヲ變スルコトヲ得トセルモ本邦從來ノ永小作ハ主トシテ田畑ノ耕作ニ限レル故ニ永借人ニ與フルニ借地ノ形質ヲ變更スルノ權ヲ以テセサルモノ之カ爲メニ敢テ非常ノ不便ヲ感スルコトナカルヘシ若シ又稀ニ形質變更ノ必要ヲ感スルコトアリトセハ別ニ所有者ノ承諾ヲ得レハ可ナリ或ハ之ヲ非トシ荒地ノ起復新田ノ開發等ノ事ハ明カニ土地ノ用方ヲ變更スルモノナルニ若シ本案ノ主意ノ如クスルトキハ永借人ハ此等ノ行爲ヲ爲スコトヲ得サルニ至リ從テ永借權ヲ設定スルノ效用著シク減セントスフ者アランナレトモ荒地ノ起復新田ノ開發等ノ場合ニ於テハ概ネ其初メニ當リ之ヲ目的トシテ永借權ヲ設定スルモノニシテ設定ノ當時既ニ其土地ハ起復若クハ開發スヘキモノトナリ決シテ永借人ノ任意ニ從來ノ用方ヲ變スルニアラサルヲ以テ永借人ノ此等ノ行爲ヲ爲スニ何等ノ障

碍ヲモ生セサルヘシ故ニ一般ノ原則トシテハ永借人ハ隨意ニ借地ノ形質ヲ變スルコトヲ得サルモノトスヘシ殊ニ本案ニ於テハ永小作權ト稱シテ永小作ハ耕作又ハ牧畜ヲ爲ス場合ニ限レルヲ以テ此原則ヲ採ルモ決シテ永小作人ニ非常ノ不利益ヲ生スルコトナカルヘシ或ハ又之ヲ難シト本案ノ如クスルトキハ永貸借ト普通ノ貸借トノ間ニ殆ント差異ナキニ至ルヘシト云フモノアレトモ兩者大ニ異ナル所アリ普通ノ貸貸借ニ於テハ賃貸人ハ賃借人ヲシテ賃借物ノ使用及ヒ收益ヲ爲スコトヲ得セシムルノ義務ヲ有スルモ永貸借ニ於テハ永借人自ラ土地ノ使用及ヒ收益ヲ爲スニ止マリ永貸借當然ノ結果トシテ永貸人ニ何等ノ義務ヲモ生スルコトナレ一ハ人權ニシテ一ハ物權ナルヲ以テ兩者ノ間ニ著ルシキ差異ノ存スルハ實ニ明了ノコトナリ而シテ土地ノ所有者ニシテ諸般ノ煩累ヲ避ケント欲スル者ハ永借權ヲ設定スヘク又假令多少ノ煩累アルモ寧ロ借賃ノ多カランコトヲ望ムモノハ賃貸ヲ爲スコトナルヲ以テ此兩種ノ權ハ共ニ宜シク法律ノ認ムヘキモノトス

二、既成法典財產編第百五十六條ニハ永借權ハ契約ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ストセリ是レ永借權ヲ以テ賃借權ノ一ナリトシ賃借權ハ必ス契約ヲ以テ之ヲ設定スヘキモノトセルニ因レハナリ然リト雖モ本案ニ於テハ永小作權ト賃借權トハ全ク別種ノ權利ナリト認メタルヲ以テ賃借權ノ設定方法ニ異ナリタル方法ニ由リテモ永小作權ヲ設定シ得ルモノトシレ從テ原文ノ如キ規定ヲ必要トセス尙深ク之ヲ論スルトキハ賃借權ト雖モ一旦之ヲ物權ナリトスルヲ以上ハ其設定ニ必スシモ契約ヲ要スルノ理由ナキナリ兎ニ角本案ニ於テハ永小作權ハ地上權ト等シク契約以外ノ行爲ヲ以テ

モ之ヲ設定スルコトヲ得ルモノトシ從テ右ノ規定ヲ全然削除セリ

三、同編第百六十四條ニ永貸人ハ永貸借契約ノ當時ノ現狀ニテ永貸物ヲ引渡スモノトス永貸人ハ貸借ノ期間内小修繕ヲ負擔セスト言ヘリ是レ亦既成法典ニ於テハ永貸借ヲ賃貸借ノ一種トシ通常賃貸借ノ規則ニ從フヘキモノトセルノ結果ナリ（財一五七二項）卽チ既成法典ニ於テハ賃貸人ハ物ノ引渡前ニ一切ノ修繕ヲ整ヘ且賃貸借ノ期間大小修繕ヲ爲スノ責ヲ負フモノトセルヲ以テ原文ノ如キ條文ナキトキハ永貸人モ亦當然此ノ如キ義務ヲ負フヘキモノト解セラルルノ恐レアルヲ以テ殊ニ右ノ條文ヲ設ケテ其然ラサル旨ヲ明言セレリ然レトモ本案ハ既成法典ト異ナリテ永小作ヲ賃貸借トセス唯永小作人ノ義務ニ付テノミ賃貸借ノ規定ヲ準用スヘキコトトシタルヲ以テ原文ノ如キ條項ハ全ク不用ノモノトナリシニ因リ之ヲ削除シタリ或ハ永貸人ニ引渡ノ義務アルコトヲ明言スルノ必要アリト言フモノアレトモ是レ所有權ノ讓渡地上權ノ設定等ニ就テモ亦同シキ所ニシテ敢テ永小作權ニ關シテノミ之ヲ言フヲ要セサルナリ

第二百七十條　永小作人ハ其權利ヲ他人ニ讓渡シ又ハ其權利ノ存續期間内ニ於テ耕作若クハ牧畜ノ爲メ土地ヲ賃貸スルコトヲ得但設定行爲ヲ以テ之ヲ禁シタルトキハ此限ニ在ラス

（理由）既成法典ニ於テハ賃借人ハ其權利ヲ讓渡シ又ハ之ヲ抵當トシ或ハ其賃借物ヲ轉貸スルコトヲ得ルモノトシ而シテ其規定ヲ永借人ニモ適用セリ外國ニ於テモ賃借人ハ其權利ヲ讓渡シ又ハ賃借物ヲ轉貸シ得ルモノトスルノ例甚タ多キモ我國各地方ノ慣習ヲ見ルニ原則トシテハ却テ永小作權ヲ自由ニ處分スルコトヲ得サルモノトスルノ例多ク（民事慣例類集五五頁以下九ノ所ニ對スル十二ノ所ノ多數）唯轉貸ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ然レトモ既ニ轉貸ヲ許ス以上ハ其權利ヲ讓渡スコトヲモ許レテ可ナリ是レ本案ニ於テモ既成法典ノ主義ニ倣ヒ永小作人ニハ永小作權ヲ讓渡シ若クハ之ヲ擔保ニ供シ或ハ土地ノ轉貸ヲ爲スノ權アルモノトセル所以ナリ

第二百七十二條　永小作人ノ義務ニ付テハ本章ノ規定及ヒ設定行爲ヲ以テ定ムルモノノ外賃貸借ノ規定ヲ準用ス

（理由）一、本條ハ既成法典財産編第百五十七條第二項ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ既成法典ニハ特別ノ合意又ハ規定ナキトキハ總テ通常賃貸借ノ規則ニ從フヘキモノトセルモ永借人ノ權利ト賃借人ノ權利トノ間ニハ著ルシキ差異アリ殊ニ本案ニ於テハ永小作權ハ之ヲ物權トシ賃借權ハ之ヲ人權トシタルヲ以テ兩者ノ性質全ク相異ナルモノトナリ到底賃借權ノ規定ヲ悉ク永小作權ニ準用スルコトヲ得サルニ至リシヲ以テ永小作人ノ權利ニ關シテハ特ニ第二百六十九條及ヒ第二百七十條ノ法文ヲ設ケ單ニ其義務ニ付テノミ賃貸借ノ規定ヲ之ニ準用スヘキコトトセリ

二、既成法典財産編第百六十六條ニハ永借人ハ租稅其他ノ公課ヲ負擔スヘキモノナリト言ヘルモ此ハ我國今日ノ慣習ニ反スルモノニシテ且本案ニ於テハ租稅其他ノ公課ニ關スル規定ヲ一切規定セサルコトトシタルヲ以テ右ノ條文ハ全ク之ヲ削除セリ

三同編第百六十七條ニハ永借人ハ借賃ニ付キ連帶且不可分ノ義務ヲ負フヘキモノトスレトモ毫モ此ノ如ク爲スノ理由ナク又之ヲ連帶ト爲スハ外國ニモ其例ヲ見サル所ナリ不可分ニ關シテハ僅カニ蘭白兩國ノ法律ニ其例ヲ見ルモ是レ此兩國ニ於テハ封建ノ遺制ヲ襲ヒテ永借賃ヲ以テ土地ノ所有者ノ權利ヲ承認スルノ證徵トシ而シテ權利承認ノ證徵ハ不可分ナリト信レタルニ因レハナリ然レトモ此兩國ニ於テモ尙此ノ如キ規定ヲ難スル者頗ル多ク現ニ白國民法草案ニ於テハ之ヲ改メ借賃ハ純然タル借賃ニシテ隨テ之ヲ支拂フノ義務ハ可分ナルモノトセリ(Laurent, Avant-projet de révision du code civil, III, p. 199 et 204.)白國ニ於テ尙且然リ況シテ我邦ノ如キハ此沿革上ノ事蹟ナキヲ以テ毫モ永借人ノ義務ヲ不可分トスルノ理由ヲ發見セサルナリ草案理由書ニハ永借權ノ期間ノ長キト永借人ノ多數ナルトヲ以テ之カ理由トスレトモ(Boissonade, Projet de code civil, I, No. 235.)賃借ノ期間長ケレハトテ其借料ヲ常ニ連帶且不可分ト爲スヘキノ理由ナク又永借人ハ常ニ多數ナリト云フハ全ク事實ニ反スルモノナリ又假ニ之ヲ事實ナリトスルモ永借人多數ナレハトテ必スシモ其義務ヲ連帶且不可分ト爲スヘキノ理ナシ尙草案理由書ニハ永借人多數ナルトキハ通常會社ヲ爲シ會社ノ社員ハ連帶且不可分ノ義務ヲ負フヘキモノナルヲ以テ永借人ノ義務モ亦之ト同種ノモノナラサルヘカラスト言ヘトモ會社ヲ結フト否トハ永借人ノ意思如何ニ因ルモノニシテ若シ之ヲ結ヒタルトキハ會社法ノ規定ニ從フテ其義務ヲ連帶トスヘキモ是レ會社契約ヲ結果ニシテ且其義務ヲ不可分トスル理由ハ之アルコトナシ是レ本案ニ於テ財產編第百六十七條ヲ削除シタル所以ナリ

第二百七十二條　永小作人ハ不可抗力ニ因リ收益ニ付キ損失ヲ受クルモ小作料ノ免除又ハ減少ヲ請求スルコトヲ得ス

(理由)本條ハ既成法典財產編第百六十五條ト全ク其意義ヲ同シウシ唯無用ノ文字ヲ省キタルノミ其但書ヲ削除シタルハ次條ノ規定アルヲ以テ本條ニ於テ特ニ之ヲ言フヲ要セスト信シタレハナリ

第二百七十三條　永小作人ハ不可抗力ニ因リ引續キ三年以上全ク收益ヲ得ス又ハ五年以上小作料ヨリ少ナキ收益ヲ得タルトキハ永小作權ヲ拋棄スルコトヲ得

(理由)本條ノ前半ハ既成法典財產編第百六十九條ニ同シク其後半ハ聊カ之ニ改正ヲ施シタルモノナリ原文ニハ一部ノ毀損ニ因リテ將來ノ收益カ借賃ノ年額ヲ超ユヘキ見込ナキトキハ永借人ノ解除ヲ請求スルコトヲ得ルモノトスレトモ將來ノ見込ヲ豫測シテ解除ノ請求ヲ爲スコトヲ許ストキハ之カ爲メニ屢爭ヲ生シ判官ノ認定モ亦往々誤謬ナキヲ保セサルヲ以テ本案ニ於テハ之ヲ改メ五年ノ經驗ニ因リ過去ノ事實ニ基キテ解除ノ請求ヲ爲シ得ルモノトセリ

第二百七十四條　永小作人カ引續キ二年以上小作料ノ辨濟ヲ怠リ又ハ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ地主ハ永小作權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

(理由)一本條ハ既成法典財產編第百六十八條ニ修正ヲ施シタルモノナリ原文ニハ永借人カ公課ノ辨濟ヲ爲ササルトキハ永貸借人ハ永貸借ノ解除ヲ請求スルコトヲ得トセルモ本案ハ既ニ第二百七十一條ニ述ヘタル理由ニ因リ公課ニ關スル規定ハ總テ之ヲ特別法ニ讓ルコトトシタルノミナラス今日ノ

慣習ニ於テハ永小作人ヲシテ公課ヲ負擔セシメサルヲ原則トセルカ故ニ茲ニハ毫モ公課ニ關スルノ規定ヲ爲ササルコトトセリ

二、原文ニハ永借人カ他ノ債權者ノ訴追ニ因リテ破產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ限リテ地主ハ永小作權ノ消滅ヲ請求シ得ルコトトセルモ本案ニ於テハ此ノ如キ區別ヲ設ケス如何ナル原因ニ因リテ破產ノ宣告ヲ受クルモ總テ地主ニ解除ノ請求權アルモノトセリ

三、原文ニハ三年間引續キ借賃ノ拂入ヲ爲ササルトキニ解除ヲ請求シ得ルモノトセルヲ本案ニ於テハ改テ之ヲ二年トセリ我國從來ノ慣習ヲ調査スルニ或ハ之ヲ二年トシ或ハ三年若クハ四年トスルモノアレトモ多クハ小作料ノ支拂ヲ遲滯スルトキハ直チニ其小作權ヲ消滅セシムルコトヲ得ルモノトセルヲ以テ本案ニ於テモ亦宜シク此慣習ヲ採用スヘキナレトモ本案ニ規定セル永小作權ニハ五十年ノ最長期限ヲ附シテ從來ノ如ク永代ノ權利ヲ許サヽルカ故ニ又他ノ一方ニアリテハ小作人ニ從來ヨリモ多クノ保護ヲ與フルヲ至當ト信シタルニヨリ之ヲ二年ノ後ト定メタルナリ而シテ從來ノ慣習タリトモ形式ノ上ニ於テハ小作料ノ拂入ナキトキハ地主ハ直チニ小作ヲ解除シ得ルモノトセリト雖モ實際ニ於テハ常ニ必ラスシモ此權ヲ行使スルニアラスシテ概ネ多少ノ猶豫ヲ與ヘオルヲ以テ茲ニ本案ノ規定ニ於テ二年ノ猶豫ヲ與フルモ穴勝慣習ニ激變ヲ加ヘタルモノトイフヲ得ス

第二百七十五條　前六條ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

（理由）小作ノ事タル各地慣習ヲ一ニセス本案ニ於テハ其尤モ實際ニ便ナリト信スル所ニ據リテ前數條ノ原則ヲ設ケタレトモ決シテ之ヲ以テ從來ノ慣習ヲ打破スルノ精神ニアラス本邦ノ如キ古來農ヲ以テ國ヲ建テ各地ニ諸般ノ慣習ノ存セル國ニ於テ僅ニ一篇ノ法律ニ因リテ從來ノ慣習ヲ悉ク變更セシトスルトキハ社會上及ヒ經濟上涉ナカラサル害毒ヲ釀シ而モ其得ル所多カラサルヘキヲ以テ苟モ一定ノ慣習ノ存スルトキハ成ヘク之ニ據ラシムルヲ可トス是レ本案ノ主義トスル所ニシテ殊更茲ニ本條ヲ設ケテ此旨ヲ明カニセルナリ

第二百七十六條　永小作權ノ存續期間ハ十年以上五十年以下トス若シ五十年ヨリ長キ期間ヲ以テ永小作權ヲ設定シタルトキハ其期間ハ之ヲ五十年ニ短縮ス

永小作權ノ設定ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ五十年ヲ超ユルヲ得ス

設定行爲ヲ以テ永小作權ノ存續期間ヲ定メサルトキハ別段ノ慣習アル場合ノ外之ヲ三十年トス

（理由）本條ハ旧成法典財產編第百五十五條ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ左ニ其要點ヲ示サン

一、旧成法典ニ於テハ永賃借トハ期間三十年ヲ超ユル賃貸借ナリト言ヘルヲ以テ三十年以下ノ永借權ナク又五十年ヲ超ユルヲ得ストセルカ故ニ五十年ヨリ長キ永借權ナク歸スル所永借權ノ存續期間ハ三十年ヨリ長ク五十年ヲ超ニサルモノトスレトモ本邦ノ慣習ニ據レハ三十年以下ノ永小作ヲ設定ス

ルコト尠カラサルヲ以テ本案ニ於テハ永小作權ハ地上權ノ如ク十年以上五十年以下ソモノトシタルナリ而シテ地上權ノ場合ニ於テハ設定行爲ヲ以テ其存續期間ヲ定メス又別段ノ慣習モナキ場合ニ限リ裁判所ヲシテ此期間ノ範圍内ニ於テ地上權ノ存續期間ヲ定メレムルコトトセルモ永小作權ノ場合ニ於テハ其存續期間ハ常ニ十年以上五十年以下トシ二者ノ間ニ著シキ差異ヲ設ケタリ是レ此兩種ノ權利ノ性質ノ相異ナルヨリ生スルノ區別ナリ而シテ永小作權ノ性質ヨリイヘハ法律ヲ以テ其存續期間ノ最長期ヲ限定スルヲ可ナリト信シタルニ因リ本條ノ如ク規定シタリ

二、既成法典ニハ期間ヲ定メサルトキハ之ヲ四十年トストイヘリ是レ既成法典ニ於テハ永借權ノ最短期ヲ以テ三十年ヨリ長レトシ其最長期ヲ五十年トシタルヲ以テ之カ中ヲ採リテ四十年トシタルモノナラン本案ニ於テハ永小作權ハ十年以上五十年以下ノモノトシタルニ因リ其中間ノ年限ノ如キモ亦從テ三十年ト成レリ而シテ地上權ノ場合ト異ナリテ別段ノ慣習アル場合ノ外ハ其存續期間ヲ三十年ト一定シ決シテ永小作人ニ與フルニ永小作權ヲ抱棄スルノ權ヲ以テセサリシハ地上權ニ於テハ地代ナキコトアルモ永小作權ニ於テハ必ス永小作料ヲ支拂フヘキモノトシタルト其他ニ徇此兩種ノ權利間ニ性質上ノ差異ノ多ク存スルニ因レハナリ

第二百七十七條　第二百六十八條ノ規定ハ永小作權ニモ亦之ヲ適用ス

（理由）既成法典財産編第百七十條ニ依レハ永借人カ永借地ニ加ヘタル改良及ヒ栽植シタル樹木ハ永貸借ノ滿期又ハ其解除ニ當リ賠償ナクシテ之ヲ毀シ盡クヘキモノトシ唯建物ニ付テハ永貸人ニ先買權アルモノトセリ是レ外國ニモ未タ其例ヲ見サル所ナリ今原文ノ說明ヲ開クニ永貸借ハ土地ノ改良ヲ目的トスルカ故ニ通常ノ改良及ヒ樹木ハ無償ニテ之ヲ永貸人ニ讓與スルヲ當然トス殊ニ樹木ハ之ヲ栽ウルノ始メハ僅少ノ價格ヲ有スルニ過キス他ノ改良ハ之ヲ土地ヨリ分離スルコトヲ得サルモノニシテ且其價格ヲ評定スルコト頗ル難シ獨リ建物ニ至リテハ其價格ノ高キモノ多ク且土地ヨリ之ヲ分離スルコト容易ナルヲ以テ永貸人ニハ單ニ之カ先買權ノ與フルニ止メタリト(Boissonade, Projet de code civil, I, No. 239)言フニアレトモ實際ニ於テハ決シテ此ノ言ノ如クナラス永貸借ニハ土地ノ改良ヲ目的トセスシテ永借人獨リ利ヲ得ントスルモノモ多クアルヘシ又假ニ憑ク土地ノ改良ヲ目的トセルモノトスルモ必ラスシモ其當然ノ結果トシテ此改良又ハ樹木ヲ無償ニテ地主ニ與フヘキ理ヲ生セサルナリ樹木ハ之ヲ栽ユルノ始メハ僅少ノ價格ヲ有スルニ過キスト言ヘト實際ニハ往々既ニ成長シテ若干ノ價値ヲ有スル物ヲ栽ユルコトアリ土地ニ加ヘタル改良ハ之ヲ土地ヨリ分離シ難シト言ヘトモ此ハ土地ノ改良トイヘハ單ニ肥料ヲ施コシ刺棘ヲ拓クノ類ニ限レルモノト思惟シ他ニ石垣籬墻等ノ如キ工作物アルヲ見サルノ論ナリ以上ノ如キ理由ニ因リ本案ハ既成法典ヲ改メ地上權ノ場合ト等シク永小作權ノ場合ニ於テモ永小作人ハ工作物又ハ竹木ヲ悉皆收去スルコトヲ得ルヲ原則トシ唯地主カ時價ヲ提供シテ之ヲ買取ルヘキ旨ヲ通知スル場合ニ限リ永小作人ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得サルモノトセレナリ尙ホ第二百六十八條ノ理由ヲ參照スヘシ